

2月20日 本日の為替見直し

ポイント

本日2月20日(月曜)は、米国市場はプレジデントデーで休日となり、本日午後11時30分からは、世界中の市場参加者が注目している、ユーロ圏財務相会合が開始され、今週はこの結果で相場の流れが決まると言っても過言ではない。

17日の独・イタリア・ギリシャの首脳会議(電話)で、モンティ・イタリア首相やザイベルト独報道官はギリシャ第2次支援が実現する可能性が高いことを示唆、ギリシャ政府は、第2次支援を受ける最後の条件となる3.25億ユーロの追加削減策を18日に閣議決定した

ギリシャ支援には2020年までにギリシャは公的債務をGDP比120%まで圧縮する必要があると、トロイカ調査団は129%の数字を示し、達成は不可能とされていた。

しかし、ショイブレ独財務相は最大123%まで容認される可能性があるとして、ハードルを引き下げ、ギリシャは125%以下まで圧縮が可能と、ギリシャ第2次支援をクリアする可能性が高まっており、相場にある程度織り込まれていると思われる。

18日には、中国は預金準備率の引き下げを決定したことで、AUDやNZD、CADなどの通貨や、株式市場や商品市場にとってもプラス材料が提示され、週初の相場を注目したい。

先週末、EURNOKは一時7.4813まで下落、終値ベースでも7.5013と9年来の安値を更新し、EUR安・NOK高となった。ノルウェー中銀が利下げサイクルの終了を示唆したことが要因とされているが、テクニカルでは7.50を割り込んで推移が続くと、続落の可能性が高くなり、この水準で下げ止まると、昨年9月と同じように反発が始まり、7.6870近辺がターゲットになっている。

EURAUDは、長いダウトレンドが続いているが、日中ベースでは、2月7日の1.2133を割り込むことはできず、終値ベースでも2月6日の1.2235を割り込めずにいる。EURUSDが反発していることも要因の一つではあるが、この水準を割り込むと再び売りの流れが始まることになりそうだが、1.2340を終値ベースで超えてくると、買いの流れに反転する可能性も出てくる。

今日午後11時30分から始まる、ユーロ圏財務相会合を前に、このように、EURUSDを見る上で、EURクロスを研究してみるのも一案ではないだろうか？

本日、日本の1月通関ベース貿易収支の発表があり、赤字額が1.4563兆円の予想と、月次ベースでは過去最大の赤字額になりそうであるが、短期的にはすでに円ショートポジションが積み上がっている可能性もあるが、円安の流れがどこまで進むのか注目されている。

本日の重要な経済指標 発言・その他

◎発言・その他

米国市場 プレジデントデーで休場
フランス国債入札
23:30 ユーロ圏財務相会合

◎注目の経済指標

08:50 日本1月の通関ベース貿易収支

本日の主な経済指標と発表予定

6:45	NZD 第4四半期 生産者物価:投入高=前期比予想0.4% 前回0.6%、生産高=前期比予想0.5% 前回0.2%
8:50	JPY 1月 通関ベース貿易収支=予想-1.4563兆円 前回-2051億円、季調済=予想-8478億円 前回5676億円
9:01	GBP 2月 ライトムーブ住宅価格=前月比予想 前回-0.8%、前年比予想 前回0.4%
14:00	JPY 12月 景気一致CI指数・確定=予想 前回93.2、一致指数・確定=予想 前回94.3

EURUSD・EURJPY・USDJPY のマーケット・レベル



EURUSD(日足) = 25 日指数移動平均線は 1.3102 で、これを上回り買いに変化している。 DOPup=1.3448, DOPdn=1.2792。 スロー・ストキャスティックは %K=42.65, %D=48.03, 売りを継続しているが、買いに変化する兆しもでており、ベースはニュートラル。上値のポイントは 1.3321, 1.3405, 下値のポイントは 1.3054, 1.2974。 予想レンジは 1.3050~1.3300。

EURJPY(日足) = 25 日指数移行平均線は 101.59 で、この線を下限に上昇を続けている。 DOPup=105.21、DOPdn=100.16。 スロー・ストキャスティックは %K=85.66, %D=79.68, 買いを継続しているが、トレンドのある上昇なのか、売りへ変化するのか注視、ベースは買われ過ぎゾーン。上値のポイントは 105.21, 107.61。下値のポイントは 102.59, 101.31。 予想レンジは 103.50~105.50。

USDJPY(日足) = 25 日指数移動平均線は 79.53, この線を下限に上昇を続けている。 DOPup=79.38, DOPdn=77.19。 スロー・ストキャスティックは %K=91.72, %D=83.46 で、売りを継続しているが、トレンドのある上昇なのか、売りへ変化するのか注視、ベースは買われ過ぎゾーン。上値のポイントは 80.23, 81.50。下値のポイントは 78.23, 77.39。 予想レンジは 78.50~80.20。

本日の CFD 見通し Spot.WTI と Spot.Gold のマーケット・レベル

ポイント

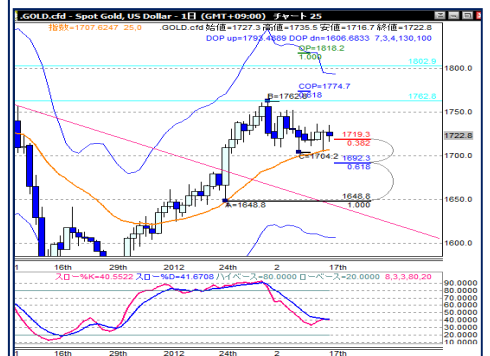
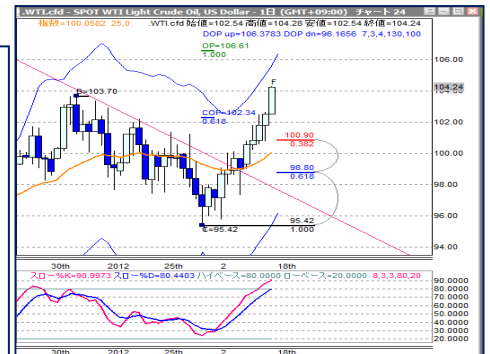
本日のユーロ圏財務相会合で、ギリシャ第 2 次支援が実施の有無を待つ日となっているが、市場参加者は合意をある程度、相場に織り込み原油価格の上昇になっていた。カセミ・イラン石油相は、英国とフランスの石油会社へ原油輸出の停止を初めて命じ、原油価格の上昇要因となっている。また、イラン海軍の駆逐艦がスエズ運河を通過し、シリアのタルトに入港、軍事力を誇示と、シリアのアサド政権への支持を兼ねているとの思惑も流れている。国際原子力機関 (IAEA) は 20~21 日にイラン核開発疑惑の解明のために高官級調査団をテヘランに再派遣するが、1 月の調査はイラン側の協力がなく失敗に終わり、今回はどのように応じるかが注目されている。

◎Spot.WTI (Light Crude Oil)

EMA は 100.06 で引き続き買いの流れを継続し、1 月 5 日に高値 103.70 を超えたことで強い流れが確認された。EMA とのかい離幅も拡大していることで、本日のユーロ圏財務相会合でギリシャ第 2 次支援が決定されれば、買いから一時的に利合いの売りも予想されるが、100.90 を割り込むまでは、買いの流れは変わりそうにない。

◎Spot.Gold

EMA は 1707.62 でこの水準でかろうじて下げ止まっている。リスクオフの流れにも買いへの動きは鈍く、実需筋の売りが上値を押さえ続けているといわれているが、EMA を上回り、引き続き買いの流れを示唆し、ストキャスティクスが買いへ変化すれば、緩やかな上昇の流れが期待できる。



Spot.WTI (Light Crude Oil) (.WTI 日足) = 25 日指数移動平均線は 100.06, この線を下限に上昇を続けている。 DOPup=105.62, DOPdn=95.40。 スロー・ストキャスティックは %K=91.00, %D=80.44 で、買いを継続しているが、トレンドのある上昇なのか、売りへ変化するか終始、ベースは買われ過ぎゾーン。上値のポイントは 105.62, 106.61。下値のポイントは 102.34, 100.90。

Spot.Gold (.GOLD 日足) = 25 日指数移行平均線は、1707.62, この線を下限に横ばい状態が続いている。 DOPup=1794.67, DOPdn=1607.07。 スロー・ストキャスティックは %K=40.55, %D=41.67 で、売りから買いへ変化する可能性が高くなっている、ベースはニュートラルゾーンに近い。上値のポイントは 1762.8, 1774.7。下値のポイントは 1704.2, 1692.3。 予想レンジは 1700~1750。

前日の海外市場の動き

翌週月曜日は米国市場が祭日となる週末の金曜日。為替市場は、20日に予定されているユーロ圏財務相会合で、ギリシャ第2次支援が決定されるとの期待感の中で取引が続いた。アジア市場では、ボラード NZ 中銀総裁「NZの経済動向は低めに評価されている可能性がある」との発言に一時 NZDUSD は上昇、AUDNZD は値を下げ、欧州時間では、英国の小売売上高が非常に強く、GBPUSD は上昇、EURGBP は値を下げて始まった。パパデモス・ギリシャ首相は、「3首脳(独・イタリア・ギリシャ)は20日のユーロ圏財務相会合はギリシャ支援で合意に達すると見込む」との報道で、EUR 買いが強まり、ザイベルト独報道官が「独・イタリア・ギリシャ3首脳は電話会談でギリシャへの追加支援を協議、20日の財務相会合を楽観視している」との報道に EUR 買いの流れが加速した。しかし、ギリシャが「集団行動条項(CAC)の発動をする用意がある」と報道に、デフォルトの懸念と、「IMF がギリシャ救済の拠出額は130億ユーロにする計画」との報道に、予想を下回る金額に EUR 買いの流れも弱まり、米3連休前の米国市場の午後は取引を控える動きが強まった。

- ◎ボラード NZ 中銀総裁は、NZの経済動向は低めに評価されている可能性がある→NZDUSD は上昇、AUDNZD の下落が始まる
- ◎英小売売上高は、予想を大幅に上回り GBP は急伸
- ◎カナダの消費者物価指数は、予想を上回り USDCAD は一時下落
- ◎モンティ・イタリア首相は、独・イタリア・ギリシャ首脳会議で、20日のユーロ圏財務相でギリシャ支援の合意に達成すると見込む→ EUR 買いが強まる
- ◎米消費者物価指数は、予想通りだが4カ月ぶりの伸び率で、コアの前年比は予想を上回る
- ◎ザイベルト独報道官、独・イタリア・ギリシャ3首脳は電話会談でギリシャへの追加支援を協議、20日の財務相会合を楽観視している
- ◎ギリシャ政府、第2次支援パッケージで債務交換に支持しない投資家に損失受け入れを強制する法案の作成や、集団行動条項(CAC)の発動をする用意がある→ EUR 買いが続くがデフォルトの懸念に買いも続かず
- ◎関係筋、IMF はギリシャ救済の拠出額を削減し130億ユーロにする計画

USDJPY アジア市場は、78.92で取引が始まり、開始直後の78.79を安値に仲値に向け、実需筋のクロスを含め円売り強まり、79.17まで上昇、大枠79.00~15のレンジで取引が続いた。欧州市場は、79.17を高値にクロス円で利食いの円買いに、一時78.97まで値を下げたが、堅調な欧州株と債券市場の影響に底堅く、CADJPYの買いも強く、モンティ・イタリア首相の発言を契機にEURJPYが上昇し、79.35台まで上昇した。米国市場では、大枠79.25~37のレンジから、米株価の上昇からの円売りと、79.40~50のストップの買いに、昨年10月日の高値79.53を超え、76.60台まで上昇し高値圏で終了した。

EURUSD アジア市場は、1.3129で取引が始まり、大枠1.3120~45のレンジで取引が続いたが、中東・東欧勢の参入に1.3110台まで値を下げた。欧州市場は、堅調な株式市場に底堅く、GBPUSDの買いに1.3170近くまで上昇、利食いの売りに1.3130近くまで下落、USDCADの売りや、モンティ・イタリア首相がギリシャ支援の合意を見込むとの発言に、1.3180近くまで続伸した。米国市場は、ザイベルト独報道官が独・イタリア・ギリシャ3首脳は電話会談で、20日の財務相会合を楽観視しているとの報道に1.3197まで上昇、ギリシャ政府が集団行動条約を発動する用意があるとの報道に、EUR 買いも続かず、1.3140近くまで下落、米3連休前で取引も細り、大枠1.3140~65のレンジで取引が続いた。

AUDUSD アジア市場は、1.0753で取引が始まり、ボラード NZ 中銀総裁の発言を受けたNZDUSDの買いに、一時1.0799まで上昇、NZDUSDが値を下げると、連動し緩やかに値を下げた。欧州市場は、リスクオンの流れに一時1.0750から1.0785まで上昇したが、週末のポジション調整の売りに上値は重く、1.0750まで緩やかに値を下げた。米国市場は、1.0760台の上値は重く、堅調な株価やEURUSDの上昇にもかかわらず、1.0740を割り込むとストップの売りに1.0688まで下落、大枠1.0700~20のレンジで取引が続いた。

金・原油価格

◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

WTI アジア市場は、102.60とNY市場のクローズから上抜けして取引が始まり、102.50~55を底値に102.98まで緩やかに上昇した。欧州市場は、リスクオンの流れに103.20台まで上昇、利食いの売りに抑えられ、大枠102.82~23のレンジで取引が続いた。米国市場は、ギリシャ第2次支援が20日のユーロ圏財務相会合で決定されるとの思惑に、103.84まで上昇、103.05近辺を底値に、終盤にかけてはイラン核開発への報復措置に対する週末リスクのヘッジの買いも加わり、1月5日の高値103.70を超え、ストップの買いに104.28まで上昇し、高値圏で取引を終了した。

◎Spot.Gold

GOLD アジア市場は、1728.3で取引が始まり、1733.4まで上昇、大枠1730~34のレンジで取引が続いた。欧州市場に入ると、堅調な株価に一時1735近くまで上昇したが続かず、再び大枠1729~33のレンジで取引が続いた。米国市場に入り、ギリシャ第2次支援が20日のユーロ圏財務相会合で決定されるとの思惑に一時1735.5まで上昇したが、利食いの売りに1730を割り込み、1727を割り込むと売りが加速し1717近くまで続落、3連休を控えて米国市場は1720割れの売り意欲も鈍く、実需筋の買いに1725近くまで値を戻している。

前日の主な発言・出来事

欧州関連	
	コエリョ・ポルトガル首相＝◎これ以上の救済を求めない ◎支援拡大を求めるつもりはない
	ラトーレ・スペイン副経済相(16日)＝◎第1四半期GDPは一段のマイナス成長の可能性
	ケニー・アイルランド首相(16日)＝◎欧州は金融危機発生時にユーロを安定させる断固とした行動をとる能力を持っていなかった
	オルファニデス・キプロス中銀総裁(16日)＝◎欧州連合首脳が域内の債務危機収束に苦慮している中で、ユーロ圏の信頼感が低下している ◎参加国の連絡、協力を目指す構想は崩壊しつつある
	ドイツ首相はローマ訪問を中止

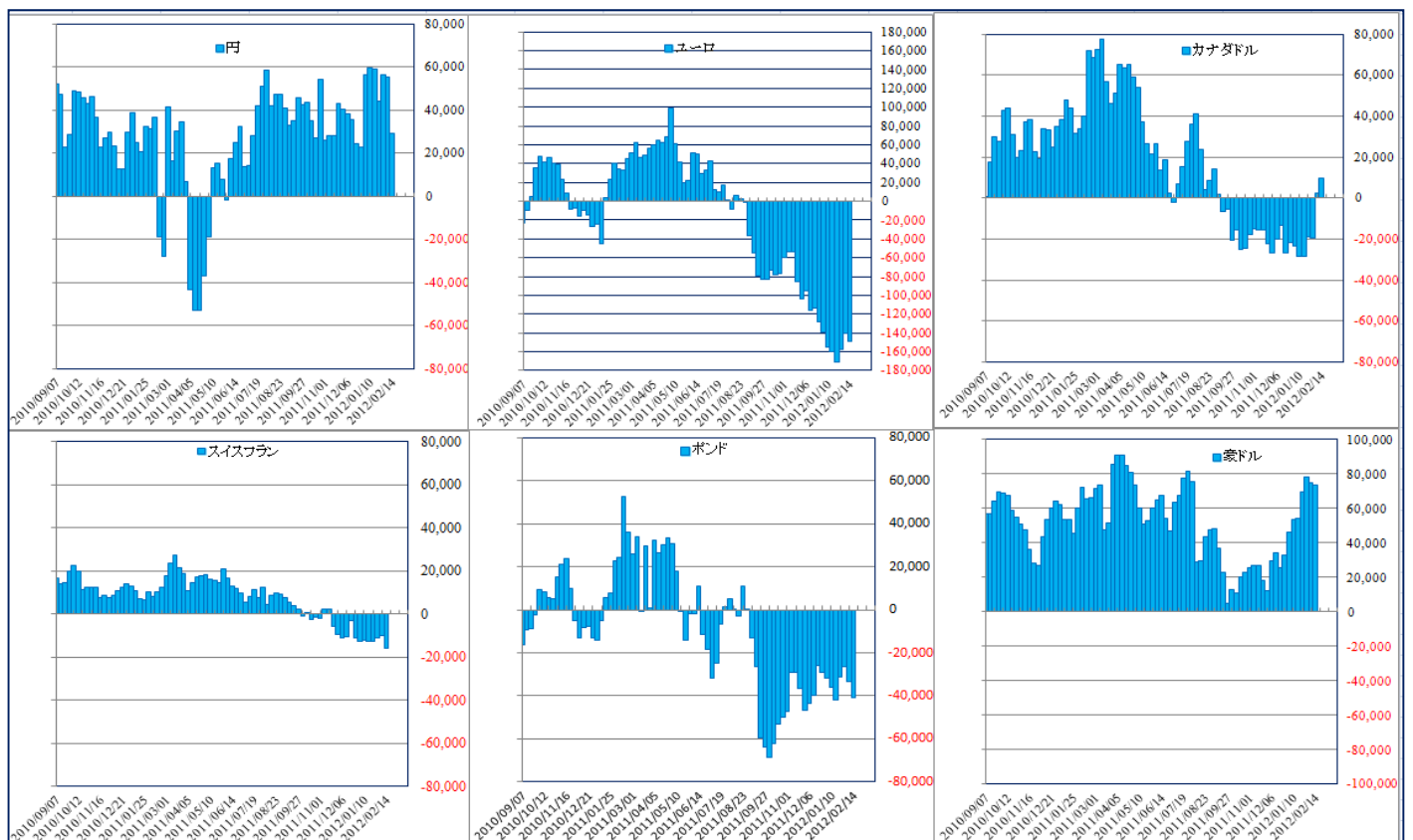
ギリシャ関連	
	パパデモス・ギリシャ首相＝◎メルケル・独首相と、モンディ・イタリア首相と電話会議をし、建設的な協議を行った ◎声明では、3首脳は20日のユーロ圏財務相会合はギリシャ支援で合意に達すると見込む
	ザイベルト独報道官＝◎独・イタリア・ギリシャ3首脳は電話会談でギリシャへの追加支援を協議、20日の財務相会合を楽観視している
	20日のユーロ圏財務相会合は午後3時30分に、予定の午後5時より早く開始
	ECB＝◎加盟國中銀は民間セクターが関与する債務債券に伴う損失を回避するため、集団行動条項(CAC)が適用され合い債券に交換することを望んでいる→当局者の話では、ギリシャはユーロ圏各国中銀保有も、民間債権者の債務減免の対象としたい考え
	ショイブレ独財務相＝◎ギリシャの公的債務は2020年までにGDP比で最大123%まで容認される可能性がある→ギリシャ支援策では120%の圧縮が必要とされていた
	ギリシャ政府＝◎第2次支援パッケージで債務交換に支持しない投資家に損失受け入れを強制する法案の作成を進めている→当局者は、数日中にギリシャ議会に提出する可能性や、集団行動条項(CAC)の発動をする用意がある
	ECB＝◎ギリシャ債の交換を完了したが、各国中銀の保有債券は含まれなかった
	フィオン仏首相＝◎民間債権者はギリシャ向け融資70%放棄で合意
	独紙ウェルト(16日)＝◎パプリアス・ギリシャ大統領のショイブレ独首相の批判発言で、独連立与党の議員がギリシャ第2次支援支持の考えを変える可能性
	匿名関係者(独紙ウェルト・18日)＝◎ギリシャは2020年までに公的債務をGDP比125%未満に削減する可能性がある
	フレアティ・カナダ財務相＝◎G20の議題でモンティ・イタリア首相と会談したが、ユーロ圏財務相会合でギリシャ第2次支援が承認に慎重ながらも楽観的な見方をしている
	ユンケル・ユーログループ議長＝◎ギリシャは2020年までにギリシャ債務をGDP比120%まで縮小させる目標の達成にほど遠い→IMFは2020年までにギリシャの公的債をGDP比120%まで削減できなければ、第2次支援は実施できない可能性があることを表明している
	関係筋＝IMFはギリシャ救済の拠出額を削減し130億ユーロにする計画
	バイトマン独連銀総裁(独紙シュピゲル)＝◎ECBが保有するギリシャ国債を新発債と交換する決定を支持せず ◎ECBを特例扱いすることで、他のギリシャ国債保有者が法的措置に訴える可能性がある
	ギリシャ政府＝第2次支援を受ける最後の条件となる3.25億ユーロの追加削減策を閣議決定した

CHN	中国人民銀行＝◎2月24日から21%の預金準備率を0.5%引き下げることが発表→預金準備率の引き下げは過去3カ月で2度目
CHN	中国国家统计局＝◎1月の新築住宅価格は70都市の内、47都市で前月から下落
USD	米議会の上下両院＝◎給与税減税の年内延長を本会議で可決、オバマ米大統領に送付した ◎1450億ドル規模の給与減税措置は、賛成60、反対36で上院を通過、賛成293、反対132で下院を通過していた
NZD	ボラード NZ中銀総裁＝◎NZの経済動向は低めに評価されている可能性がある ◎NZとオーストラリア間の成長格差は、統計上の手法の違いが原因で、実際はもっと少ない可能性がある
USD	フィッシャー・ダラス連銀総裁＝◎勢いを増す米経済は、欧州債務危機に失速する可能性はあるが、一段の金融緩和はその解決策とならない ◎QE3はFRBないで議論されておらず、QE2にも反対だった ◎問題解決のために追加金融緩和に頼ることは間違っている
JPY	ムーディーズ＝◎日本国債の現状について2月24日に記者懇談会を開催
NOK	EURNOK＝◎2011年9月の安値7.4848を割り込み一時9年ぶりの7.4813まで下落、NOKが上昇、ノルウェー中銀が利下げサイクルの終了を示唆したことも影響している
CHF	モーザー・スイス中銀代理委員+シュナイダーマン経済相＝◎スイスフランは高止まりしており、今後の経済見通しによっては中銀がスイスフラン安誘導策をとる用意がある ◎スイスフランは過大評価されており、国内経済に悪影響を与えている ◎EURCHF1.200は、スイス経済にとっても適正でも理想でもなく、有利は水準ではない

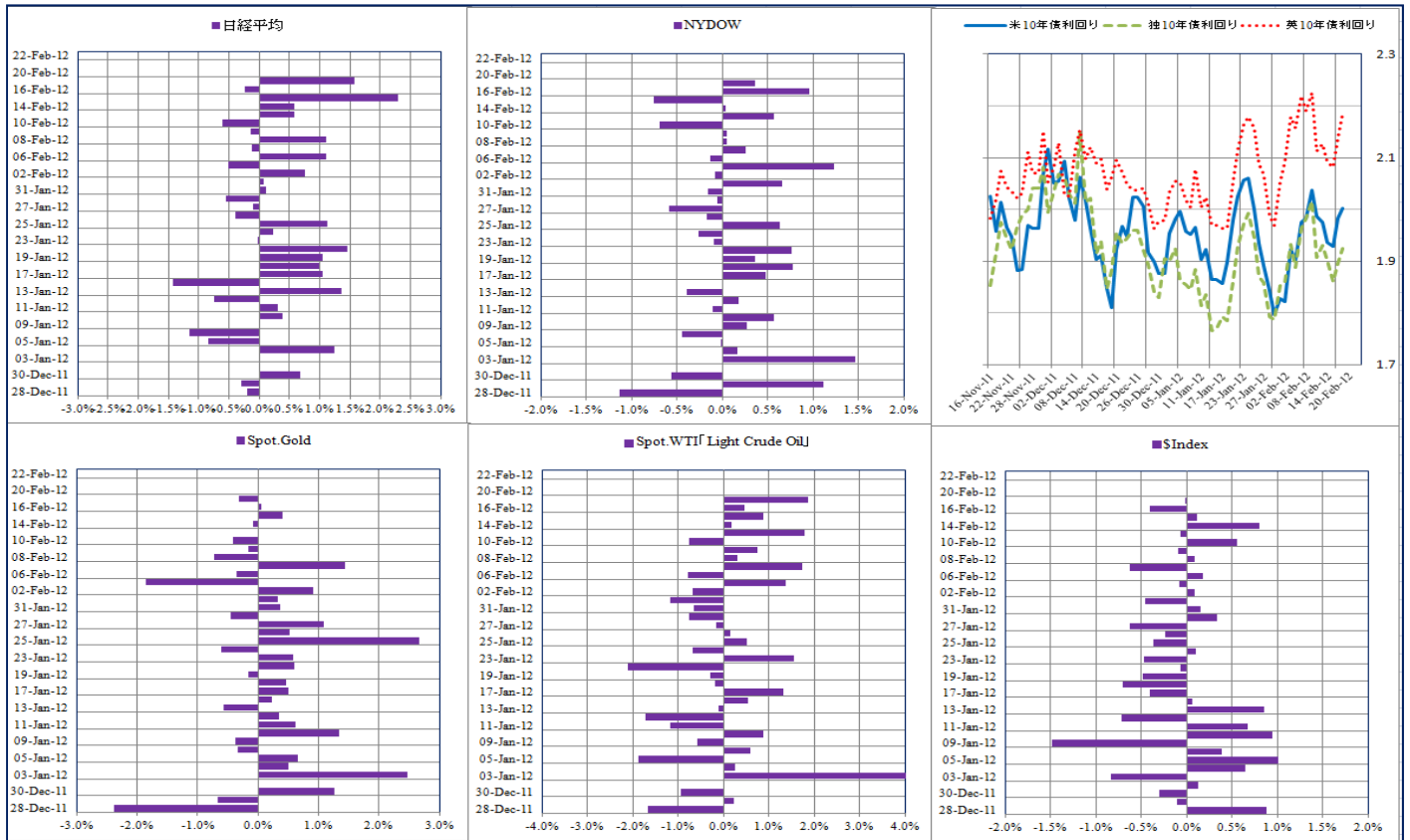
前日の経済指標と結果

16:00	GER 1月 生産者物価指数=前月比0.6%(予想0.3% 12月-0.4%)、前年比3.4%(予想3.2% 12月4.0%)
18:00	EUR 12月 経常収支=20億ユーロ(予想11月-9←-18億ユーロ)、
18:30	GBP 1月 小売売上高=前月比0.9%(予想-0.3% 12月0.6%)、前年比2.0%(予想0.5% 12月2.5←2.6%速報)
19:00	EUR 12月 建設支出=前月比0.3%(予想11月0.2←0.8%)、前年比7.8%(予想11月0.4←0.2%)
21:00	CAD 1月 消費者物価指数=前月比0.4%(予想0.3% 12月-0.6%)、前年比2.5%(予想2.3% 12月2.3%)、カナダ中銀コア=前月比0.2%(予想0.1% 12月-0.5%)、前年比2.1%(予想1.9% 12月1.9%)
22:30	CAD 1月 景気先行指標指数=前月比0.7%(予想0.7% 12月月0.7←0.8%)
22:30	USD 1月 消費者物価指数=前月比0.2%(予想0.2% 12月0.0%)、前年比2.9%(予想2.8% 12月3.0%)、コア前月比0.2%(予想0.2% 12月0.1%)、コア前年比2.3%(予想2.2% 前回2.2%)
0:00	USD 1月 CB景気指数: 先行指数=前月比0.4%(予想0.5% 12月0.5←0.4%速報)、一致指数=前月比0.2%(12月0.3%)、遅行指数=0.4%(12月0.3%)

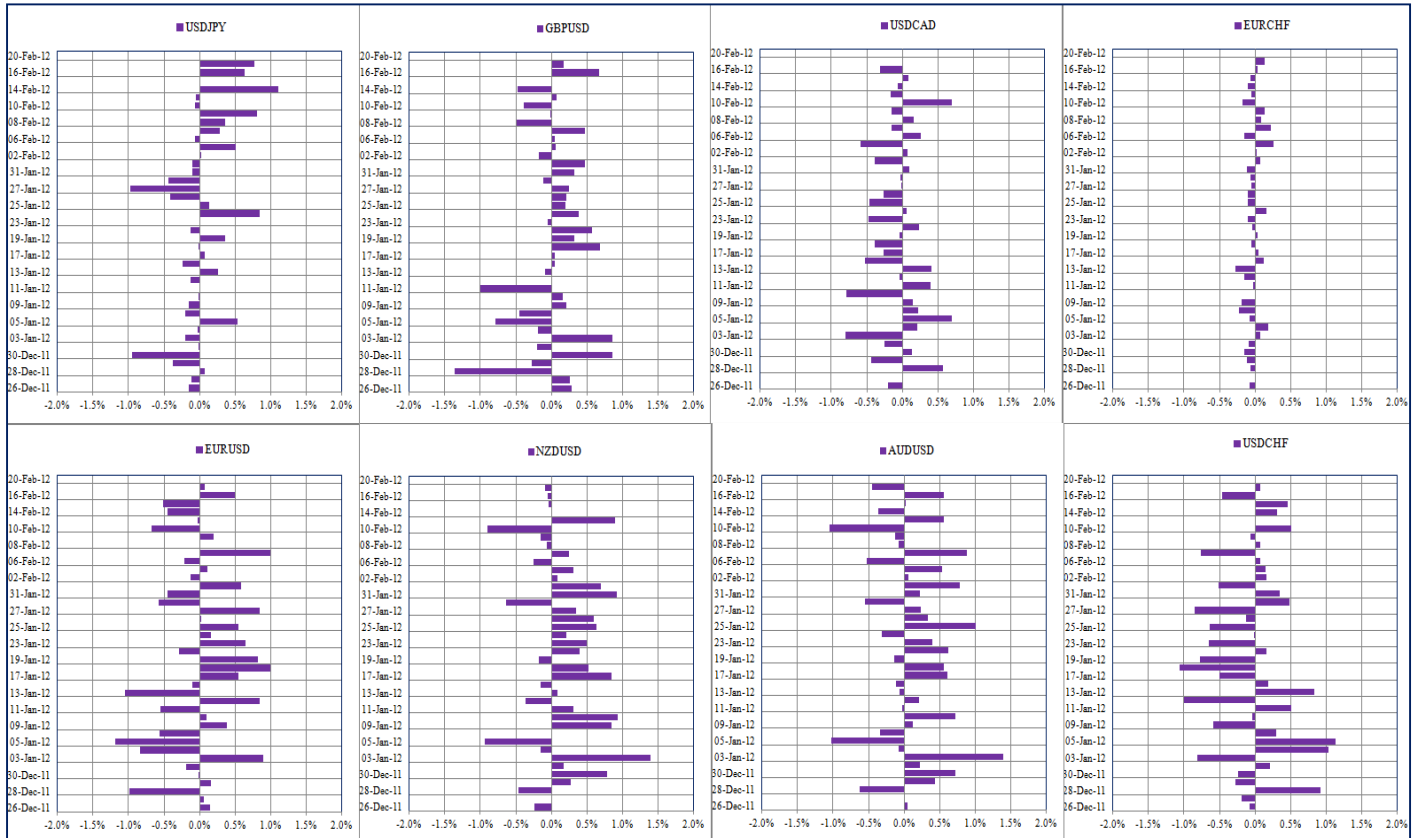
CFTC 発表の IMM 通貨先物の取り組み(2月14日まで発表)



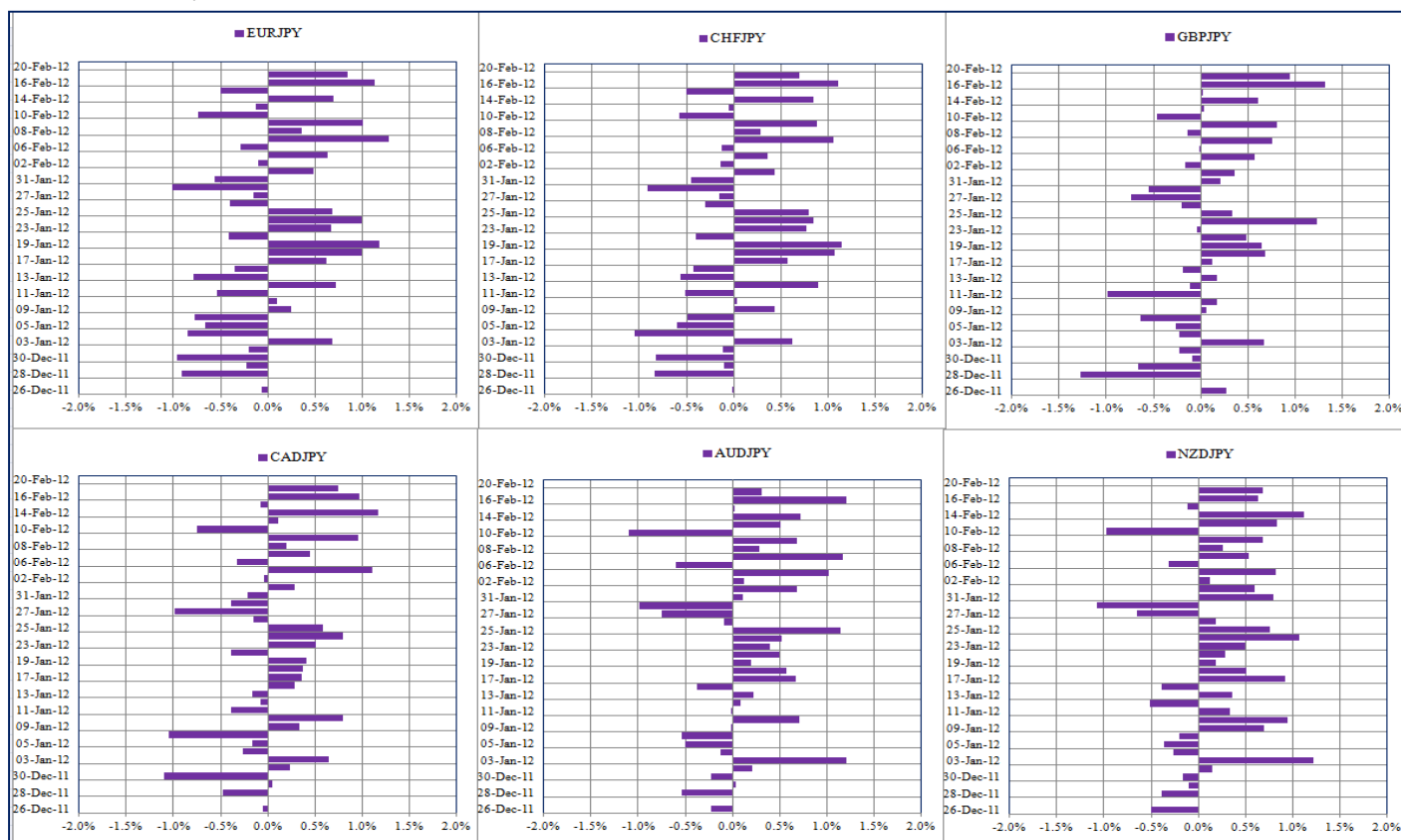
日経平均株価・NYダウ平均株価・SpotGold・SpotWTI・\$Index の(Daily 変動率)、10年債利回りの Daily 推移と比較



主要通貨の Daily 変動率 (%)



円クロスの Daily 変動率(変動率)



USD=米国、JPY=日本、GER=独、GBP=英国、CAD=カナダ、AUD=豪州、NZD=ニュージーランド、
CHF=スイス、NOK=ノルウェー、SEK=スウェーデン、CHN=中国、FFR=フランス

本レポートで言及している市場予想の出所=fx360.com,ロイター社。各国経済指標・日時の出所=fx360.com ロイター社

外国為替保証金取引(FX)及びCFDには、高いレベルのリスクが潜在しており、全てのお客様に適した投資商品とは言えません。高いレベルのレバレッジは、利益ももたらしますが、損失ももたらします。預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、損失に耐えられない金額を投資するべきではありません。過去のパフォーマンスが、必ずしも将来の結果を示唆しているわけではありません。

本レポートの内容は

- 情報提供の目的にのみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。
- マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。
- レポート著者の予想・意見は必ずしも、弊社及び弊社関係者の見方を反映したものではありません。
- 筆者によって提供される市場に関する如何なる予測や見解についても、その正確性が検証されている訳ではありません。
- 当社は本レポートの内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

GFT はお客様への一般的な情報として本資料を提供していますので、投資判断を行う際の詳細な独自調査に代えて本資料に依拠することはお控えください。

GFT は、本資料に含まれる情報に基づいた投資の結果として発生した損害に対して、如何なる責任も負いません。また、投資、法律、会計、税務、またはその他の専門的助言についても、一切提供することはありません。これらの専門的助言が必要な場合は、専門家にご相談ください。

同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして第一種金融商品取引業者登録(関東財務局長(金商)第268号)および商品先物取引業者許可を取得しており、社団法人金融先物取引業協会および日本商品先物取引協会の加盟業者です。www.gftforex.co.jp

© 2011 グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッド 著作権/著作権所有。無断複写・複製・転載を禁ず。

CD08J.005.113011